

支笏湖ビジターセンター便り

2018年(平成30年)3月号 Vol. 99

尻すべり



ツルブランコ



雪合戦



雪山の登山を体験した子どもたち

雪、名残惜しい!

最高気温がプラスの日が多くなり、5℃台が続く日も出てきました。雪の質が変わってきましたよ。日中溶けた雪が夜に凍るため、この時期の雪は「堅雪(かたゆき)」になっています。スノーシューをつけてなら、どこへでも楽に進めます。雪の上の散歩、葉っぱのない木々の間を飛び交う野鳥を探しながらの森探検です。動物の足跡を見つけたり、尻すべりだって出来ますよ。

雪に覆われた林床の景色は美しく、その景色を見られるのは後ひと月といったところでしょうか。雪上散歩や探検、雪遊びももうすぐ終わり。そう思うと名残惜しく感じませんか。



エゾシカを観察中

無積雪期は笹だらけ。
雪があるからこそ行ける場所
(写真は「自然ふれあい行事」と
「こどもDay」より)



紋別岳中腹を探検中



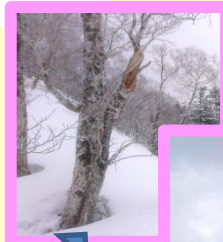
このトドマツの幹にはヒゲマの爪跡があります

さて、春のきざしはどうでしょう?

14日、春を探しにビジターセンター周辺を歩きました。

木々の冬芽は固く閉じ、一見「春どころではない!」と思ったのですが、ところどころ雪解けで地面が見えていて、土の香りがしました。風が穏やかな日だったので、野鳥の歌声(=さえずり)がたくさん耳に入り、明るい日差しが身体をポカポカと温めてくれました。春は近づいていましたよ。

樹木の「根開き」をご存知ですか? 樹木の根元の周囲の雪解けが進んでいる状態をいいます。遊歩道から森をのぞけば気づくでしょう。木に日差しが当たり温められ、それが雪に伝わって起きるのです。気温の上昇が見てとれ、春の到来を教えてくれるものの一つです。



根開き



3月12日「半鏡」出現。湖に波が無く周囲の山が湖面に映り込む鏡現象は春の風物詩。(支笏湖の外輪山幌平山から撮影)

支笏湖温泉 の気象

支笏湖畔の気温
・降水量・日照時間
～気象庁アメダスによる
平年値と今年の観測～

気温(°C)

	平年値	今年
2月上旬	-5.3	-4.4
中旬	-4.8	-6.9
下旬	-3.7	-5.7
3月上旬	-3.2	-1.9

日照時間(h)

	平年値	今年
2月上旬	34.5	35.1
中旬	37.1	40.8
下旬	33.9	50.3
3月上旬	45	26.9

降水量(mm)

	平年値	今年
2月上旬	19.7	11
中旬	31.4	21.5
下旬	24.7	4.5
3月上旬	31.5	162.5

2月の気温は上旬を除いて平年値より低めに推移し、月平均気温は平年値より0.9度低い氷点下5.7度でした。3月上旬は高めに推移し、上旬の平均気温は平年値より1.3度も高い氷点下1.9度でした。

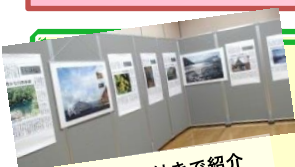
降水量は、2月は37mmと平年値75.7mmの半分以下でしたが、3月は1日に39.5mm、8日に60.5mm、9日に57.5mmなど、上旬だけで同月の平年値105mmを大幅に上回る162.5mmとなっています。特に8日の降り始めからの24時間雨量は118mmに達し、同月としては観測開始以来2000年3月29日の120mmに次ぐ値となりました。



ビジターセンター運営協議会主催 自然ふれあい行事のご案内

今年度(29年度)の自然ふれあい行事の全てが3月10日に終了しました。毎月2回の自然観察会などの行事を通して226人の方々に支笏湖の豊かな自然を紹介することが出来ました。

来年度の年間行事予定の発表は4月下旬です。館内で予定表を配布するほか、HPでも見られますのでぜひチェックして、参加してみてください！楽しいですよ！



日記は写真付きで紹介

ビジターセンター内
多目的室にて

『支笏湖日記展』開催中

ビジターセンタースタッフが交代で地元新聞に投稿している「支笏湖日記」。毎月1回の記事からはその時々の自然情報・まつりのおもしろ味など、地域の見所が見えてきます。日記をポスターサイズにして掲示しているので読みやすいです。ぜひご覧ください。同時に平成29年4月から今年3月までのふれあい行事を紹介する写真も展示しています。

支笏湖ビジターセンター運営協議会発行

〒066・0281 北海道千歳市支笏湖温泉番外地

TEL 0123・25・2404

HPアドレス <http://shikotsukovc.sakura.ne.jp>

【開館時間】 ※入館無料

4月から11月 午前9時から午後5時30分まで

12月から3月 午前9時30分から午後4時30分まで

(火曜日休館・祝日の場合は翌日)

年末年始休館日 12月29日から1月3日まで



アクティブレンジャー 日記

体を逆さまにして移動するゴジュウカラ

みなさんは「さえずり」と「地鳴き」という言葉をご存じでしょうか？

図鑑で調べてみると「さえずり」とは、春から夏にかけての繁殖期に小鳥のオスが出す声のことで、メスを呼ぶ、縄張りを宣言するという意味があります。「地鳴き」とは、さえずり以外の鳴き方で、一年中、オスもメスも出し、警戒や群れの中のコミュニケーション等に使われているそうです。先日、出勤時に車から降りてみると・・・「フィフィフィ」というゴジュウカラの「さえずり」が聞こえました。大雨や雪が降るといふ不安定な天気が続いている支笏湖ですが、「さえずり」を通して、着実に春へと向かっていることが感じられた日となりました(^_^)

環境省 支笏湖自然保護官事務所
アクティブレンジャー(自然保護官補佐)
當山 真貴子

ビジターに おいでよ！



先月は剥製の鳥を紹介しましたが、今回は「木彫りの鳥」のお話。「バードカービング」と呼ばれる彫刻です。

一本の木を材料に、羽や翼の模様まで繊細に彫られ、実物そっくりに着色されたバードカービングたち。剥製だと思っているお客様に「これは木を彫って作られているんですよ」と伝えると驚き、感動されます。

お客様を連れての野外イベントでは野鳥と出会うことも多いのですが、相手はじっとしてしてくれないし、距離も離れているので細やかな観察は難しいのが現実。そんなときもバードカービングが活躍してくれます。イベント終了後に「さっき見た鳥はこんな形、こんな色をしていました」と紹介できるのは写実的なバードカービングならではの。

ちなみに大きさは実物大。鳥の種類によって違うくちばしや足の形までカンペキに再現されています。ビジターセンター内の「小さな野鳥美術館」をじっくりご鑑賞ください！